

聞く・話す指導の実践

青山陽子

一、はじめに

平成七年四月、教員になった私は、三年二組を担任することになった。すべてが初めての経験で、右往左往の毎日だった。

給食指導、掃除指導、毎日の朝の会や帰りの会での話・・・とまどうばかりであったけれども、私には学校に行くことが毎日とても楽しく感じられた。なぜなら、子どもたちは、本当にいつも明るく、温かい笑顔を私に送ってくれたからだだった。

私は、何とかみんなが、自分のクラスで全校に誇れるような活動を起こしていきたかった。そこで、子どもたちと活動内容について話し合いをした。

当時、学年大縄大会が行われたばかりだった。一回の差で二位になってしまった悔しさが子どもたちの中にくすぶっていたため、大縄跳びは、どのクラスにも負けないようにしたいという願いから、

一年間大縄跳びの活動をするようになった。「努力・協力・三〇〇〇回」というスローガンを立て毎日活動した。途中何度も、「やりたくない」「記録が伸びないからいやだ。」という子どもたちが出てきた。活動に参加しなくなった子どもたちも出てきた。このような問題が出てくるたびに、何のためにこの活動を始めたのか、みんなやらなければ、回数が達成できても何の意味もない、というような話し合いを繰り返してきた。

連続して三〇〇〇回跳ぶのは、とても困難なことだった。しかし三学期の終わり、大縄をするのは最後という日に、なんと目標が達成できたのである。みんな飛び上がって喜びあうことができた。

二年めの平成八年度は五年二組を担任した。

国語の授業で環境問題についての説明文「一秒が一年を壊す」を学習した。本文を一通り学習したのち、現在起こっている地球の環

境問題について調べ、みんなで話しあってゆくという授業・「地球子ども環境会議」を行った。

会議なので、調べたことをもとにして発表するだけでなく、自分たちが今から本当にやらねばならないことを発表者が提案し、提案について意見を出しあって行く展開であった。提案者、司会者などすべて子どもが行って進めていった。いろんな問題の中で、「森林破壊」に子どもたちは大変興味を持ち、自分たちでやって行けることを考えた。その活動としてグリーンマークを集める活動をするようになった。

私の学校には、「学習交流会」という行事がある。学習してきたことをまとめて発表する行事である。いろいろ子どもたちと話し合ったが、最終的に「会議」で話し合ったことを全校のみんなに分かりやすく発表しようということになった。

そして、「森林破壊」について簡単な創作劇を発表した。グリーンマークを集めると木がもらえることを訴えたところ、次の日グリーンマークを他の学年の子が持ってきてくれた。このことに対して子どもたちは大変喜びを感じていくようになった。

これからも、何か子どもたちの活動で、心に残るものを一緒に作って行きたいと考えている。

二、聞く・話すことの指導

(一) 児童の実態

三年生の初めの四月。組替えで子どもたちどうしも知らない子がほとんど。もちろん私も全員初めての出会いだった。

話を始めようと思っても、集中して聞いてくれる子はほとんどいなかった。もちろん友達が見ても、自分のことを一生懸命やっていたり、外を見ていたり・・・という姿が目立っていた。だんだん落ち着いてはきたものの、なかなか自分の世界から抜け出せない児童が目立った。

また、話し方にも問題があった。発言する子は、クラスのみんなに話し掛けるのではなく、教師である私にのみ話しているのである。そのため、声の大きさも、全体に聞こえるには不十分な児童が多かった。聞く・話す姿勢ができていなければ、友達と話し合うことで内容を深めて行く授業は無理だと感じた。

二年めの五年生ともなると、やはり三年生とは違って、何か言おうという時には初めから集中して聞ける児童が多かった。しかし、もともと大変元気の良い子どもたちで、何でも思いついたことを話したがる子がとても多く、そのため、誰かが話し終わる前に、思いついたことをしゃべってしまう姿が大変多かった。話についてこれない子は、わけが分からないまま、どんどんおいて行かれてしまう

のである。

また、思いつきで次々と話すので、話している内容にまとまりがなく、自分でも何を言っているのか分からない事があった。指示や、前の子が話したことを正確に落ち着いて聞けないこともあったため、的外れの発言をすることも目立った。

中には、みんなの方を向いて一生懸命話をしている児童もいるのに、その話を聞かない児童もいた。

聞く・話すということは、自分にとっても大切だというだけでなく、一緒に学習したり生活したりする先生や友達を大切に行っているのだということも分かってほしいと感じた。

(一) 聞く・話す指導の意味

私自身、聞く・話すということについては、次のように考えている。

①教科書指導の面から

どの教科でも聞く・話す姿勢が一番重要だと思う。人の話を聞くことで新しい考えが生まれたり、自分の考えを発表することで、他の人たちに考えを広めることができるからである。それだけ授業に深まりができると共に、学校で多くの仲間と学習している喜びにながって行くと思う。

その中でも特に、「聞く」ことは大変重要だと考えられる。とても簡単そうに思えるが、実はとても難しいと思う。ただ聞いているだけではだめなのだ。誰かが話していることの中心点や意味を聞き取らなくてはならない。その話の内容を聞き取れたとき、その話を原点に自分の考えを作り出して行くことができる。話の意味が分からなければ、自分の考えを新たに創造することができなくなってしまう。そうなるのは、話し合うことに何のつながりも深まりも出てこなくなってしまうのである。

自分の意見を持ち、それをみんなに伝えるとき大切になるのが、話す姿勢である。いくら良い意見を持っていたとしても、誰かに分かってもらわなければ、そこから先は、何の深まりもなくなってしまう。しかし、相手に伝わりやすいように話をすれば、またそこから、新たな考えを引き出すことが出来るようになる。

②学級経営の面から

聞く・話すことは、教科の内容を深めて行くときに大変重要であると共に、もうひとつ大変重要な意味があると思う。それは、友達や話し手を大切にしているということである。

三年生の、大縄の活動では、ひとりでも欠けていたら、たくさん跳べても記録にはならない、全員で取り組んでいくことが大切なのだという話し合いをくりかえしてきた。

授業も同じで、一人でも、参加しなかったら三年二組の授業にはならないし、一生懸命話をしている友達に対して知らん顔をしているのは、跳べなくて困っている子をほかっておくのと同じだよ、ということ話を話してきた。

本当にクラスの友達を大切に思っていたら話を聞けるはずだし、友達を大切にして一生懸命話を聞ける子は、自分も大切にしてもらえらんだよ、ということも話してきた。少しずつではあるが、子どもたちも、何となく聞くことの意味や、話す事の意味を分かってくれたようだった。

三、年間を通しての目指す姿

△三年生▽

実態でも書いたように、集中して話が聞けない。主に手なぶりなどとして、自分の世界に入ってしまうからである。そのため、次のような姿を目指して取り組んでいった。

①初期

- ・ 全員の目が揃うまで待つ。
- ・ 子どもたちが自ら聞こうとする姿勢を待つ。
- ・ 進んで聞ける子をほめる。速く全員聞く姿勢が出来た事をほめる。

②中期・後期

ア、聞き方のステップ

- 1、手なぶりをしない。
- 2、後ろを向かない。
- 3、背筋を伸ばす。
- 4、話し手の方を見る。
- 5、最後まで聞く。
- 6、同じことが言える。
- 7、比べながら聞く。
- 8、心で聴く。

イ、話し方のステップ

- 1、自分の考えを持つ
 - 2、ぴしっと手を挙げる
 - 3、大きな声ではっきりと
 - 4、分かりやすい発表
- ・ 前を出てきて動きをいれて

・短かくまとめて

- 5、前学習したこととつなげて
- 6、わけを深く考えて
- 7、聞く人の気持ちを考えて

後で述べるが、どちらも個人カードを作り、毎日チェック出来るようにした。

週の初めに目標をたてて、記録を残していく方法を取った。

どちらのカードも数字が大きくなるほど難度が高くなっている。

子どもたちには見易いようにモンシロチョウの成長などにおきかえて、最後までいくと成虫になるようにした。

△五年生▽

五年生はなかなか最後まで聞くことが出来ず、自分の考えのみを言おうとする児童が目立った。そのため、友達の意見と関連した意見がなかなか出なかった。

そこで、三年生の聞き方・話し方のステップを前期に指導し、後期には、友達の意見と関連して話せるような話し方、発言が出来るよう指導することにした。そして次のような姿を目指す姿として取り組んだ。

聞き方のステップ

- 1、めざせ！○○さん姿勢
- 2、めざせ！○○さんけじめ
- 3、めざせ！燃える目○○くん
- 4、おなじことが言える
- 5、めざせ！○○さん流聞き比べ
- 6、話す人の気持ちを考えて

1は、聞き方の姿勢のよい子をめざすという意味である。(背筋を伸ばす、手なぶりをしない、後を向かない)

2は、聞くときは聞く、書くときは書くなどすぐに次の行動に移るということである。

3は話す人の目を見て聞くことである。

4は前に話したことと同じことを繰り返して言えるほどよく聞くことである。

5は友達の意見と自分の意見を比べながら聞くということである。

6は、以上のことを総合して友達の話を意識して聞くと同時に、話している人の気持ちも考えながら聞くということである。

それぞれ、子どもたちの中から、その項目について出来ている人を挙げてもらい、個人名を入れて目指す姿とした。さらに良い姿が

みつかったら、このさきも目指す姿を増やして行く予定である。

聞き方・発言のステップ

- 1、自分の考えが持てる
 - 2、めざせ！○○さん挙手
 - 3、めざせ！○○さん返事
 - 4、めざせ！○○くん姿勢
 - 5、めざせ！○○さん発声
 - 6、めざせ！○○さん敬語
 - 7、めざせ！発言名人○○さん
- ・ 先生や友達に質問する
 - ・ つけたしをする
 - ・ 少しの違いを話す
 - ・ 反対意見を言う
 - ・ 前の学習とつなげる
 - ・ 生活経験と結びつけて
 - ・ 例を挙げて
 - ・ 仮定して考える
 - ・ 考えが変わったことを言う
 - ・ いくつかの意見をまとめて言う

1は質問等に対して自分の意見を持つということである。

2は真つすぐ挙手するということである。

3は指名されたらすぐに返事をするということである。

4は立ったとき、みんなの方に体を向けて話すということである。

5はみんなに聞こえるように話すということである。

6は、最初は作っていなかったのだが、敬語を使えるようになった

いという子どもたちの願いから新しく作った名人である。

7は、分かりやすい発言、分かりやすい説明の仕方、友達の意見を

意識した発言の目指す姿である。

こちらの方も、目指す人を子どもたちに選んでもらい、その名前

を入れて掲示した。また、チェックカードを作成し毎日反省できる

ようにした。

四、実践

前述の目指す姿は、教室に掲示をしていつでも意識して取り組めるようにした。しかしそれだけではなかなか定着を図ることは難しいと考えられたので以下のような指導も試みた。

①録音テープによる指導（三年）

みんなに聞こえるような声で自分が話しているかどうか、実際分かっている子は非常に少ない。自分の発声に満足しては、そこ

からは何の進歩もないため、とにかく、自分の声の大きさに気付いてほしかった。そこでテープに声を録音し、自分の話し方の改善点に気付かせることにした。

全員の声を録音して聞き比べようと考えたので、国語の時間を利用した。物語文を一文ずつ読んでは、次の人と交替する「丸読み」を主として録音を行なった。そのテープで自分の声を聞くことに抵抗を感じる児童が多かった。始めは耳をふさいだり、笑ったりしていたが、何度か行ううちに、落ち着いて聞くことが出来るようになった。

自分の物の言い方についての感想を聞いてみたところT男は「Mさんと自分を比べると、自分の声はぜんぜん録音すると聞こえないことが分かった。次からはもっと大きな声で録音できるように話したい。」というようなことを反省として出していた。

すべての児童に効果的とは言えないが、T男のように、自分の発声の改善点を見付け、良い方向へ直して行こうとする児童の姿も見られた。

②表情豊かな音読の指導（三年）

大きな声ではっきりと話すことはだんだん定着した。しかし表情豊かに発声することはなかなかできなかった。そこで、音読を中心に場面や情景を思い浮かべながら読める指導をした。

学校だけでは音読の時間を十分に取れないため、家庭で音読の練習を位置付けた。お家の方に評価と見届けをしていただくため、音読カードを作成した。評価の観点としては、つまらずに読めたか、気持ちよこめて読むことができたか、てんやまるを意識して読むことが出来たか等である。お家の方もコメントを書いてくださるので、子どもたちも意欲的に取り組めた。

学校でも時間があるときに音読テストを行なった。しかし、子どもたちが音読が好きになる大きなきっかけは次のことだった。

教材の音読のCDに、三年生の児童の朗読があった。（役割読み）これを聞いたとき、同じ年齢の子があまりに上手に朗読していたため、かなりの反響があった。「ぼくたちでもできるんだ」という思いが出てきたらしく、恥ずかしさを忘れ、登場人物になりきって朗読する児童が増えてきた。中には本文を全部暗記するまで読みこなした児童もいた。

「ひとり読み」では活躍が難しい子が、音読になると一番元気に取り組む姿が見られた。感情をこめて読むと同時に、自然にはっきりと読んだり話が出来た児童も出てきた。

③聞き方・発言チェックカードの利用

目指す姿でも少し触れたが、聞き方・話し方の定着を図るため、チェックカードを毎日使用した。

下のカードは三年生の時に使用したものである。発言の方は段階ごとにたまご（自分の考えを持つ）↓幼虫1（ぴしっと手を挙げる）↓幼虫2（大きな声ではっきりと）↓幼虫3↓（分かりやすい発言）↓さなぎ（前に学習したこととつなげて）↓成虫（わけを深く考えて）↓金のたまご（人の気持ちを考えて）とし、速く成虫や金の卵になれるよう、週の始めにめあてをたて、毎日反省し、一週間が終わるごとに先生に提出した。

聞き方の方も同じように段階を追っていった。これは花の種をスタートとしている。

種（手なぶりをしない）↓芽1（後ろを向かない）↓芽2（背筋を伸ばす）↓双葉（話す人の目を見る）↓つぼみ（最後まで聞く）↓花（同じことが言える）↓実（比べながら聞く）↓金の芽（心で聴く）
 というようにこちらもだんだん成長できるようにした。

こちら一週間の始めにめあてをたてて取り組んだ。一週間ごとに言葉の反省を書いて先生に提出。一人一人の頑張りを認め励ますために、朱筆を入れ、目当てが達成できた児童には特別にシールをはった。子どもたちは特に分かりやすく説明することに興味を持って取り組んでいた。一つでも丸を増やすために、黒板の前まで出てきて説明をしようとする姿が多く見られるようになった。

しかし、毎日の反省や、週の反省をする時間が十分に取れなくて

落ちていて自分の姿をふりかえることが出来ないときもあった。反省を書いたり丸を打つのに非常に時間がかかったからである。

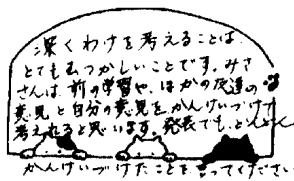
発言名人・心で聴こう 目標たっせいカード

（発言名人）

今日の目標	にわどりの大いなきをまとめてをかんばるぞ!					一週間の反省	
月	○	○	○	○	○	●	もっとふか
火	○	○	○	○	○	○	くわけを考
水	○	○	○	○	○	○	えてたくさん
木	○	○	○	○	○	○	は、ひょうし
金	○	○	○	○	○	○	たいです。
土	○	○	○	○	○	○	

（心で聴こう）

今日の目標	きなぶりをしないをかんばるぞ!					一週間の反省	
月	○	○	○	○	○	●	少しまもれなく
火	○	○	○	○	○	○	なつたのでら
水	○	○	○	○	○	○	いしょうは、こ
木	○	○	○	○	○	○	れのうばいが
金	○	○	○	○	○	○	んいまりたいで
土	○	○	○	○	○	○	す。



五年生では、聞き方、発言の目指す姿を三年生の時と同じように黒板の上に掲示した。

特に発言の力をつけさせたかったので、チェックカードは発言にしばらく、一週間の初めにそれぞれめあてをたてて取り組んだ。

次のカードはそのチェックカード表である。○△×でそれぞれの項目を自己評価する。一週間ごとに反省を文章で書いて先生に提出

内	評	過去	10/5	10/7	10/8	10/10	10/11	10/15	10/18	10/19	10/21	10/22	10/23	10/24	10/25	合計
1 手をまっすぐに伸ばして挙手できたか		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
2 みんなの方を見て話せたか		△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
3 先生の質問に挙手できたか		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
4 友達の意見について挙手できたか		△	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
5 先生に質問できたか (先生に聞きたいことは・・・)		△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
6 友達に質問できたか (～君に聞きたいことは・・・)		△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
7 つけたしはできたか (～さんの意見につけたしですが・・・)		○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
8 少しの違いを話せたか (～君の考えと少し違うのですが・・・)		○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
9 反対意見が言えたか (～さんの考えに反対です。それは・・・)		×	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
10 朝の学習と結びつけて話せたか (～を話したときには・・・)		○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
11 生活場面と結びつけて話せたか (～にも～があるのだけれど・・・)		×	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
12 例をだして話せたか (例は・・・)		○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
13 仮定して話せたか (もし～だったら・・・)		×	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
14 考えが変わったことを話せたか (わたしは考えが変わったんだけど・・・)		△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
15 いくつかの意見をまとめて話せたか (これまでの意見をまとめてみると・・・)		×	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	

10月 5日	10月 7日	10月 21日
<p>△振り返りの反省</p> <p><8は～までできるよ！> あまりで～なくて ～を～した。～を～を ～全部～するよ！</p>	<p><8は～までできるよ！> と中～△があつたけ と、6は～があつたの でよかった。</p>	<p><8は～までできるよ！> 9は～があつたの でよかった。</p>

とても難しい項目なのでなかなか達成できない児童が多かったがその分、意欲を駆り立てられ、前向きに取り組んでいく児童が多かった。友達の意見を注意して聞き、つなげて発言できる児童が増えてきた。

ただ、自己評価なので、正確に反省が出来ていない児童も目立った。客観的に反省が出来るように、コメントを書いたり、シールで評価を加えた。

④一分間スピーチによる指導(五年)

朝の会で一分間スピーチを行なっている。その日の日直一人がテーマにそってスピーチを行い、聞いている子は、それについて、質問や意見を言う形を取っている。日直は朝のうちに先生に原稿をチェックしてもらおう。話すときは資料を持ってきたり、黒板で説明したりして分かりやすく話す工夫をしている。

聞き手の方はメモを取りながら話の中心点をまとめている。次ページ上段のメモ用紙を使っているが、これは後に全部回収して発表者にわたし、今後の意欲付けにしている。

話し手の方は評価してもらっているので、それなりにがんばって話す児童が多い。クイズなどを取り入れて、みんなが楽しく聞けるように工夫している児童も見られた。聞き手の方も、話の中心点をと

らえながら聞かなくてはならないので、私語はせず、静かに話を聞いている。

最初は、話の内容も薄く、深みのないようなものばかりであったが、最近になって楽しいスピーチが出来るようになった。聞き手も、同じ子ばかりが質問をしていたが、だんだん多くの子が感想や質問ができるようになってきた。一分間スピーチでの発言も前述のチェックカードに記入しても良いことになっている。

また五年生では、前に挙げた環境問題に対する会議を行ってきた。

1分間スピーチメモ 5年2組

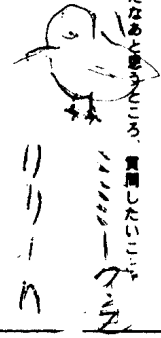
*1分間スピーチメモ

話題は何についてでしたか。(ニュース、学校生活、家庭……)

話した人が一番言いたかったことは何でしょうか。
(すばり……でしよう)

あざむき大切にやだててあげた……でしよう

もっと知りたいこと、聞きたいこと、質問したいこと、質問したいこと



評価	項目	点数
評 価	声の大きさ	1 2 3
	話す速さ	1 2 3
	分かりやすかったか	1 2 3
	みんなの顔を見たか	1 2 3
何か感想があったら書いてあげよう。		

*子ども環境会議メモ

何についての話でしたか。

いろいろなリサイクル

話した人が一番言いたかったことは何でしょうか。
(すばり……でしよう)

あざむき大切にやだててあげた……でしよう

いろいろなリサイクル

アールミカンはリサイクルしてもいいと思っただけでエネルがある。

評価	項目	点数
評 価	声の大きさ	1 2 3
	話す速さ	1 2 3
	分かりやすかったか	1 2 3
	みんなの顔を見たか	1 2 3
自分のこともチェックしよう()		
高	高	0
賛成	賛成	0
反対	反対	0
その他	その他	0
授業後の感想		
話にくかったけどみんなががんばって話さすようでした。		

この時も発表者の発言をよく聞き取るために、一分間スピーチを二元にしたメモを利用し、話し合いを進めた。右に示したカードはその時に利用した用紙である。

⑤物語文における聞く・話す指導の重視
私が指導する物語文の読み取りの一時間の流れは次ページのようなものである。

光る言葉とは、人物の行動や、その心情などが読み取れる言葉のことである。この光る言葉を元にして、物語を読み取っていくのである。

ふりかえる	せいいっぱい取り組む	めあてを持つ	学習内容
まとめる	仲間読み ひとり読み	見通しを持つ	
<p>■今日の授業をふりかえる。</p> <p>仲間読みから ○○の言葉、文章から ○○さんの発表から</p> <p>■今日の学習をプリントにまとめる。</p>	<p>■ひとり読みを元にして読みを深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを進んで発表する。 ・自分の考えと比べて聞く。 ・友達の考えにつけたす。 <p>■光る言葉を手がかりにしてひとり読みをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉の意味から ・つなげてみると ・はぶいてみると ・おきかえてみると 	<p>■課題を全員で確かめる。</p> <p>■場面音読をする</p> <p>■課題にかかわる光る言葉を探す。</p> <p>■光る言葉を発表する。</p>	

ここでは特に、ひとり読みの発表、仲間読みの読みの深め方の時間の、聞き方、話し方について述べようと思う。

ひとり読みは、課題に沿った人物の心情や様子を自分の力で読み取り、学習プリントに書き込み、それを発表することである。

まず、このひとり読みの発表に焦点をあてて行きたいと思う。

こどもたちは五分程度の間、自分のひとり読みをプリントに書き込む。書くときは本当に、真剣に一生懸命書いている。そこまではよいのだが、いざ、発表となると困ったことが起こってしまう。

せっかくチェックカードで反省をしているのに、ひとり読みの内容を言うことに必死になって、話し方まで考える余裕がなくなってしまうのである。指名されたと同時に、必死で自分のプリントを読み始める。相手を意識することなど忘れて、目線はすべてプリントに注がれてしまう。それにもなって声量もどんどん減っていってしまう。

聞いている方も、自分の発表をするまでは、他の子の意見がなかなか耳に入っていない。必死で自分のプリントを見つめている。

相手の意見を十分に聞いて理解しなければ仲間読みにつながって行かない。

このようになってしまう原因は、主として自分の考えを十分にみんなに話せるまで、まとめている余裕が、話すほうも聞いているほう

うも無いからだと考えた。

そこで、ひとり読みを書き終えた後、自分の意見を自分の頭のなかでさらにまとめるために、ペア交流を取り入れた。自分の考えをみんなに話す前に、隣の子に自分の意見を話す活動である。このことを行うことによって、自分の考えを話し言葉でまとめることができ、(書いてまとめることと、話し言葉でまとめることは違う) 全体の場で発表する前のよい足場作りとなった。それと同時に、大勢の前ではなかなか話せない子も、隣の子には話せるという利点もあった。

足場作りが出来て、多少の余裕が出てきたため、ゆっくりと落ち着いて話が出来るようになった。その都度、チェックカードの項目を思い出させて、目指している聞く姿勢、話す姿勢に近づけていった。

次に仲間読みについて述べてみたい。ひとり読みでは主に自分の意見を中心に話している。仲間読みは、その友達の意見から考えたことや、教師の中心発問などを全体で考えて行く読み取りである。ペア交流を取り入れたことで余裕が出来たため、付足しなどの意見が出てくるようになった。しかしなかなかつなげて発言できる姿は少ない。発達段階的にも問題があるのかもしれないが、あまりよい指導が出来なかった。

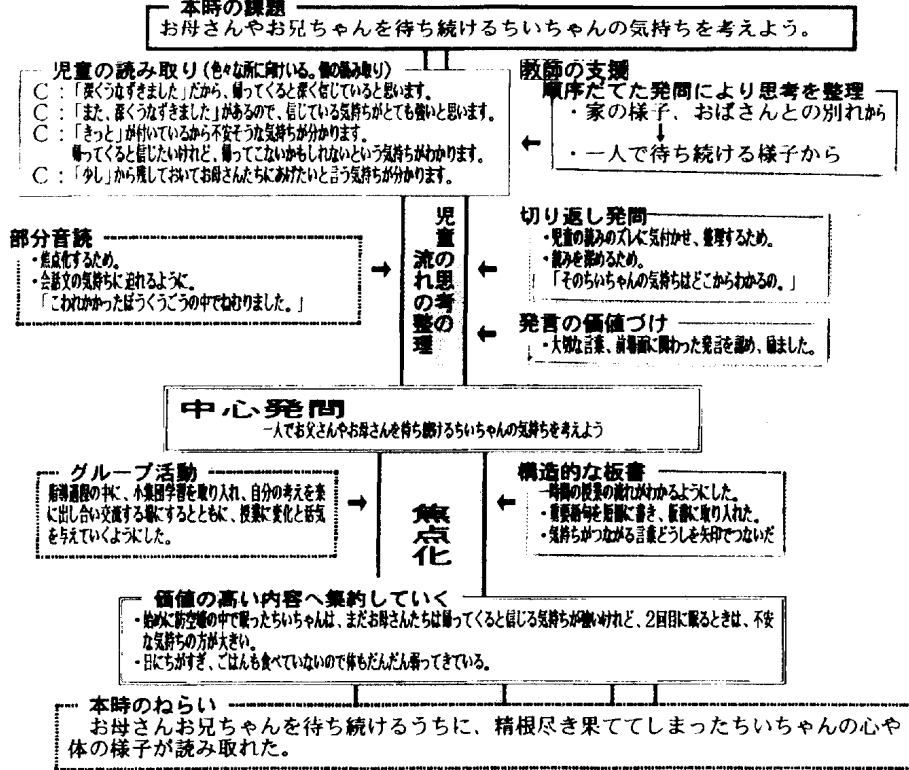
物語を読みすすめて行く時に、子どもたちにちょっと立ち止まっ

て、深く読み取らせたいときに、教師が発問をすることがある。これが中心発問である。ここでは少し難しい発問をしていたため、なかなか考えようとしても分からないし、自分の意見に自信を持って発言する姿が見られなかった。これも、やはり自信の無さや、自分の考えをはっきりさせるための足場が無いからだと考えた。そしてここでは、グループ交流を取り入れた。教師の中心発問についてグループ全体で考えていく活動である。発問が難しいと思える児童もグループの子の意見を聞きながら、考えることが出来、足場を作ることが可能となる。

しかしこれには少し問題があった。四〜五人のグループで、普段一緒に生活しているどうしなので、なれあいになって、だらだらと話し合いが進んでしまうことである。最悪の場合、遊びだしてしまいう姿も見られた。いくらグループ交流でもあまりにだらだら話しているのは話し合いにならないので、だれが意見を言っているのか、だれが話を聞くのか、その立場を明確にするために、意見を言う人は、立って話をすることにした。

初めはなかなか定着しなかったが、次第に班長の司会のもとでできばきと話し合いがグループの中で行われるようになった。自信の無かった子も、グループの子の前で発表することによって足場ができ、はきはきと話が出来るようになった。

3年 「ちいちゃんのかげおくり」 の授業進行図



次に示してあるのは、中心発問などを入れた「ちいちゃんのかげおくり」(三年、物語文)の一時間の流れである。

友達の話を一時間じっと聞いているのは大変なことであるし、三年生の児童にとってはなかなか集中力が持たない。めりはりをもち、聞くときは聞く、話す時は話すようにするため、時々部分音読

や動作化も取り入れていった。

また、発言するときに、友達の意見とつなげるだけでなく、前の場面と、つなげた発言ができるように、前回までの場面の内容や、板書を画用紙に残して掲示した。これにより、前場面での学習内容や、押さえたい流れを子どもたち印象付けることが出来た。

授業中も掲示物を見ながら「『青い空』は一場面でも六場面でも出てきているけど、この言葉が出てきたときはちいちゃんがいれいと感じたときに書かれていることが分かる。」などというように前場面と関わって発言できる子が増えてきた。

五、ふりかえりと今後の課題

色々な先生方に教えていただいた指導を繰り返してきたが、その成果と課題をまとめてみたい。

(一) 聞き方

《成果》

- ・誰かが話そうとするとき目を向けられるようになった。
- ・最後まで話を聞けるようになった。
- ・相手を意識して良い姿勢で聞けるようになった。
- ・分からないこと聞き取れなかったことを質問できた。

《課題》

- ・ 友達の意見と比べながら聞く意識がまだ薄い。
- ・ 友達の話を繰り返して言うことが難しい。
- ・ 友達の意見から新たな考えを持てる児童は少ない。

(二) 話し方

《成果》

- ・ 真っすぐ手を挙げられるようになった。
- ・ 教室中に聞こえるような声で話す事が出来るようになった。
- ・ 分かりやすい説明に心がけることが出来た。
↓自分の考えのわけが言えるようになった。
- ・ 場面と場面をつなげて考えられるようになった。
- ・ 音読を感情をこめて朗読できるようになった。

《課題》

- ・ 例を挙げて話したり生活経験を元にして話すことが難しい。
- ・ 多くの意見をまとめて発表できる児童は少ない。
- ・ 先生に対する質問がなかなかできない。

目指す姿についての課題は前述のようだが、これ以外にもまだまだ

だ実践したいことや課題がたくさんある。

- 1、自分の意見を筋道立てて話をする。
- 2、一つのことを長く話す。
- 3、長い話を一言でまとめてみる。

1では、話している途中に、自分の言いたいことが分からなくなってしまう児童が目立つので、自分の意見を整理して話が出来るようにして行きたい。

2では、特に読み取りのことで、いろいろな意見や、場面をつなげて詳しく、長く話をする力がなかなか育たないので指導して行きたいと思う。

3はその反対で、長い話の要点をまとめて、一言で言える力を付けたいということである。一分間スピーチのように簡単な話ならまとめることが出来るが、物語などの話になるとなかなか粗筋もまとめることが出来ないのので、指導をして行きたいと思っている。

六、終わりに

聞く・話すということは本当に難しいことだと思う。実際私もしっかり聞いたり、自分の意見をまとめたりすることは得意ではない。

しかし、どんなことをするについても、人の話をしっかり聞いたり、自分の考えをまとめて話したりすることは、必ず必要となってくる。だから子どもたちにはぜひ、この力をつけさせて行きたかった。

なかなかうまくいかないことが多くて悩んだこともあったが、学年の先生方に、励ましていただいたり、初任者研修で色々な先生に指導法を教えていただいたためここまでやってこることができた。

もちろん大学で学習したことも大変現場で役立っている。

これからもいろいろな子どもたちに出会って、一緒に学習したり生活したりすることになる。その中には喜びも、苦しみもたくさんあると思うけれど、今こうしてやれるのは、やはり支えてくださる先生方や、今まで、お世話になった方々のおかげだと思う。そのことに感謝して、これからも自分が出るだけのことを精一杯取り組んで行こうと思う。